ヨーロッパ ★ Finland

世界一幸福な国フィンランドでの研究生活

University of Helsinki HiLIFE - Helsinki
Institute of Life Science Neuroscience Center
山田　晴也
早稲田大学人間科学学術院分子神経科学研究室

私は、フィンランドにあるUniversity of Helsinki、Hi-LIFE、Neuroscience Centerの難波研究室に所属しております。

フィンランドに渡航当初はビザの手続きの問題で3ヶ月間住民登録や銀行口座登録ができず、家賃の支払いができない等、日本では信じられないトラブルに多数見舞われました。またそれと同時に、太陽もすぐに沈んでしまう－20℃の厳しい冬の寒さに打ちひしがれていたのをよく覚えています。

所属研究室PIの難波先生と、私と同時期にヘルシンキ大学で研究を始めた日本人ポスドクの友人には、研究は勿論のこと私生活面でも沢山助けていただき改めて感謝したいと思います。渡航当初は散々でしたが、一度全ての公的な手続きが完了すると、その後必要となる手続きは全て電子化され、光熱費や医療費等の負担も低く設定されており、大変便利で暮らしやすい街であると感じました。

また、ヘルシンキの人口は70万人とコンパクトですが、公共交通機関（トラムやバス、地下鉄等）が5分間隔で運行しており、常に座ることができる点も大変魅力的です。特に、夏の時期（6-9月）には毎日気温25℃前後の快晴(白夜)で、外を散歩するだけでも幸福を感じます。これに加えて、ワークライフバランスもしっかりと重視されています。



←難波ラボのグループ写真

バケーション期間には、家族でEU圏の旅行をしたり、日本人仲間とコテージに泊まったり、研究室メンバーでサウナを楽しんだりと充実した生活を送ることができており、世界一幸福度の高い国として知られるフィンランドの所以をこの身で体感しました。

所属研究室では、ヒトの脳がどのように発生するか、またその破綻から起きる脳形成障害がどのように起きるのかを、進化と代謝の観点から分子レベルで解き明かそうとしています。元々、早稲田大学の榊原先生のもとで代謝制御による哺乳類の脳の発生分子メカニズムの解明を研究テーマにしていた私にとっては、一貫して神経発生のテーマに取り組むことができており、毎日の研究が刺激的です。特に、多数の共同研究者や大学のコアファシリティーに恵まれています。自身のみではできない多数の高度な実験系も、個人ではなくチームで解決していく為、日本では体験できなかったスピード感を強く感じました。これまで持っていた”自分の研究プロジェクトは、可能な限り自分で全てこなすのが当たり前”という考えは大きく崩れ、1つのプロジェクトにチームで取り組む重要性を学びました。

研究室メンバーは9カ国の異なる国籍から構成されている為、毎日の昼食時、異なる文化・価値観の話ができるのも楽しいひと時であると同時に、自分の常識は世界の常識ではないことを実感しております。

最後に、海外渡航の機会をいただきましたヘルシンキ大学の難波先生、早稲田大学の榊原先生、そして多大なご支援をいただきました上原記念生命科学財団の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。